

アニエス・メロンと アンサンブル・バルカローレ

アニエス・メロン (ソプラノ、芸術監督) / ジュリアン・ハインズワース (チェロ) / ブルーノ・ヘルストロフエール (テオルボ) / プリス・セリー (チェンバロ)
Agnes Mellon, soprano and Artistic Director / Julien Hainsworth, cello / Bruno Helstroffer, teorbo / Brice Saily, cembalo

Agnes Mellon & Ensemble Barcarole

ソプラノの名花アニエス・メロンが歌う、
イギリス、イタリア・バロックの愛



人間の情熱「魅惑の宵」 Human Passion "One charming night"

[イギリスの音楽]

Music from ENGLAND

ヘンリー・パーセル: シリアはたくさんの魅力をもっている (『恋敵の姉妹』Z. 609より)
Henry PURCELL (1659-1695): Celia has a thousand charms (from the Rival Sisters)

ジョン・ダウランド: わたしの過ちを許してくれるだろうか
John DOWLAND (1563-1626): Can she excuse my wrongs

マーティン・ピアソン: 落葉 (『フィッツ・ウィリアム・ヴァージナル・ブック』より、チェンバロ独奏)
Martin PEERSON (1571-1651): The Fall of the Leaf (solo harpsichord from Fitzwilliam Virginal Book)

ジョン・ダウランド: わたしはあの人泣くを見た
John DOWLAND: I saw my Lady weep

ヘンリー・パーセル: 薔薇よりも甘く (『パウサニアス』Z585より)
Henry PURCELL: Sweeter than roses (from Pausanias)

運命の時は足早にやって来る Z421
The fatal hour comes on apace

トマス・タリス: 身はまことに幸いなる者 (チェンバロ独奏)
Thomas TALLIS (1505-1595): Felix Namque (harpsichord solo)

ヘンリー・パーセル: 狂気のベス Z370
Henry PURCELL: Bess of Bedlam

グラウンド (チェンバロ独奏)
Ground (harpsichord solo)

暫しの音楽 (付随音楽より)
Musick for a while (from Incidental Music)

[イタリアの音楽]

Music from ITALY

クラウディオ・モンテヴェルディ: 愛の手紙
Claudio MONTEVERDI (1567-1643): Lettera amorosa

ジロラモ・フレスコバルディ: バスと通奏低音のためのカンツォーナ 第1番 (カンツォーナ・ダ・ソナレ集より)
Girolamo FRESCOBALDI (1583-1643): Canzone prima per Basso e Basso Continuo (from Canzoni Da Sonare)

アリア・ディ・ロマネスカ (フレスコバルディの同主題に基づく変奏曲とともに)
Aria di Romanesca (with Frescobaldi's variations on the same theme)

バルバラ・ストロツィ: 恋するヘラクレス (カンタータ集、作品2)
Barbara STROZZI (1619-1677): Eraclito amoroso (Cantata opus 2)

ヨハネス・ヒエロニムス・カプスベルガー: トッカータ ト長調 (テオルボと通奏低音)
Johannes Hieronymus KAPSBERGER (1580-1651): Toccata in G Major (Teorbo e Basso Continuo)

ベネデット・フェラーリ: 丸腰にされ、情熱に流されたわたし
Benedetto FERRARI (1603-1681): Son ruinato, appassionato

ピアッジョ・マリニ: 恋をした老女
Biagio MARINI (1594-1663): La vecchia innamorata



ジュリアン・ハインズワース ブルーノ・ヘルストロフエール プリス・セリー

2011.12.13 (火) 19時開演
浜離宮朝日ホール

(地下鉄「築地市場駅」A2出口 朝日新聞社新館内)
Tuesday, 13 December 2011, 19:00p.m. Hamarikyu Asahi Hall

主催: 朝日新聞社 / カメラータ・トウキョウ 後援: フランス大使館

◎全指定席 ¥5,000 (税込)

◎お問合せ・電話予約:

カメラータ・トウキョウ 03-5790-5560 <http://www.camerata.co.jp>

朝日ホールチケットセンター 03-3267-9990

チケットびあ 0570-02-9999 (Pコード: 145-709)

e+ (イープラス) <http://eplus.jp>

Confetti (カンフェティ) 0120-240-540 <http://confetti-web.com/>

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650



清楚かつノブブル、そして時に情熱的な声で数々のバロック・オペラを歌い、世界中の古楽ファンを唸らせてきたソプラノのアニエス・メロンが、自ら監督を務めるアンサンブル・バルカローレとともに来日する。
イギリスのパーセル、ダウランド、そしてイタリアのモンテヴェルディらが紡いだ愛の歌をその美しい声で歌い上げます。

アニエス・メロンとバルカローレ公演への期待

表情豊かに動く大きな目、聴衆に語りかけてくる魅惑的な声。アニエス・メロンは、ウィリアム・クリスティ率いるレザール・フロリサンをはじめ、数多くの国際的な古楽アンサンブルと舞台や録音で共演し、私たちを魅了してきた。だが日本では、結婚25周年を迎えた夫君ドミニク・ヴィスとの舞台共演(ペニッシュ・オペラ)の他は、限られた機会(京都フランス音楽アカデミーや甲府の古楽コンクール)でしか聴くことができなかった。

しかし今年は、みずから結成したアンサンブル・バルカローレとともに、その魅力的な歌をたっぷり聴かせてくれる。メロンは、何よりも言葉を大切に。歌詞にひそむ個々の言葉のリズムや内容にあわせて、子音の発音や声の色彩が次々と変化していく。今回のプログラムでも、パーセルやダウランドの甘美な歌から、得意とするストロツィの情熱的なカンタータまで、心の奥にひそむ様々な情念を洗練された表現で浮き彫りにしてくれるにちがいない。

関根敏子(音楽学)

アンサンブル・バルカローレ

「官能としなやかさを併せもつ歌い手、フランス・バロック音楽最高の表現者。

無限の柔軟性、深い愛情、そして成熟した洞察力を兼ね備えたパフォーマンス。」

2008年4月 BBCミュージック・マガジン

アンサンブル・バルカローレは1997年、声楽と器楽のためのバロック室内楽を専門に演奏するグループを結成したいという強い希望から、ソプラノのアニエス・メロンにより創設された。オルガンの伴奏付きモテット、エール・ド・クール(歌曲)、世俗カンタータ(ミニ・オペラ)、17、18世紀の宗教曲等は、そのレパートリーの一部に過ぎない。この膨大なレパートリーの無限の多様性と豊かさにより、メロンは要求に応じて2人から10人までの器楽奏者とハイ・レヴェルなヴァラエティーに富んだプログラムを構成している。2005年にはアルファ・レーベルよりファースト・アルバム「冒流された女神たち」("Les desesses outrages")を発表。バロック時代のフランスの作曲家が解釈する女神と偉大なヒロインたちの情熱を表現し、各紙で高く評価された。毎年招待されているサン・ジュネ・レブ秋の音楽祭に加えて、最近ではオランダとベルギーの7都市でコンサートを行った。フランスでは、アルク=ラ=パタイユ・アカデミー、サン・ドナのJ.S.バッハ・フェスティバル、ミュージカル・デュリュベロン、ナンシーのサル・ポワレル、マルセイユの室内楽協会に出演している。2007年12月より3年間、スーヴィニー秋の音楽祭におけるコンサートを放映する契約をヨーロッパのTV局メツォと結んでいる。今回が待望の初来日。



浜離宮朝日ホール

〒104-8011 東京都中央区築地5丁目3番2号 朝日新聞東京本社
TEL. 03-5541-8710 FAX. 03-5541-8705 <http://www.asahi-hall.jp/hamarikyū/>

- 都営大江戸線
築地市場駅・A2番出口から、朝日新聞ビル入り3分。新館2F
- 東京メトロ日比谷線または都営浅草線
東銀座駅・6番出口から徒歩7分。
- 東京メトロ日比谷線
築地駅・1番、2番出口から徒歩10分。
- JR新橋駅汐留口または都営浅草線
新橋駅から地下通路をカレッタ汐留方面へ徒歩5分。
- ホールに駐車場はございません。首都高速汐留駐車場(お問い合わせ・03-3542-0341)をご利用ください。
第4階段を出て徒歩3分。